会津大学短期大学部新学生寮

a2200803 安保敬正

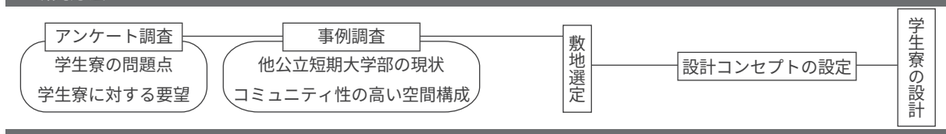
- 研究背景・概要 -

現在、多くの学生寮には共通して大きな問題がいくつか挙げられる。主たるものとして学生寮のコミュニティとしての問題がある。近年の大学学生寮の事例では設備は新しく整っているものの、部屋は個室となっていてコミュニティ性が低い傾向にある。逆に、複数人で一部屋を使うような場合では同居人に対して気疲れしてしまうようなこともある。

大学側の提供する学生寮という施設は、自然に人とのコミュニケーションがとれ、充実した大学生活が送れるものでなければならない。加えて、防犯や衛生管理などをはじめとした環境がしっかりと考えられた、生活しやすい環境をつくり、ストレスや生活問題から学業に悪影響が出ないようにする必要がある。また、それらをきちんと管理できるようになっていなければならない。

人とのコミュニケーションが重要視されている今、そういったことを自然に学ぶことができる空間がこれからの学生寮には求められていると考えられる。この研究ではそういったことを十分に考慮した学生寮の設計を行っていく。また、本研究では上記で述べたコミュニティ性の問題についてだけでなく、現在の短期大学部の学生寮の抱える問題についても解決していく方向で設計を進めていく。設計を進めるにあたっては学生へのアンケートや事例調査を前もって行い、より現実的な提案としていく。

- 研究方法 -



- 調査結果・分析 -

< アンケート調査 >

アンケート調査では、学生寮利用者から現在の学生寮について右記のことをはじめとした多くの問題点や要望について知ることが出来た。

居住環境について	設備の要望	衛生面、管理面の問題点
・仲間がいるので心強い	・勉強場所	・湿気が多い
・相部屋だと気疲れする	・冷暖房、除湿機	・カビがひどい
・一人の空間がほしい	・洗濯スペース	・虫が多い
・安心できる空間であってほしい	・防音対策	・学生管理なので防犯面で不安

< 事例調査 >

この調査では、他の公立短期大学の保有する学生寮についての詳細を知ることができ、同時に本学の学生寮の規模が非常に小さいということがわかった。コミュニティの問題に対しては、大きく共用部をとり個室との空間のつながりを意識して設計することで解消することができる。また、それは居室が一人部屋であっても十分有効である。

< 計画想定敷地 >

現在の短期大学部学生寮の敷地では建築基準法の問題で新しく建設が出来ないので、新学生寮は短大敷地内のテニスコートとプールのある敷地で計画を立てていく。敷地内に建設することにのメリットとしては、管理がしやすくなり、セキュリティや防犯面が強化される、立地条件によるものだと考えられる湿気や虫の被害が解消されるといったことが挙げられる。なお、この場合の設計では短大の空間と寮の空間のつながりについても考慮していく必要がある。

- 設計コンセプトの設定 -

< コミュニティ性 >

今回の設計で一番の要となるコミュニティ性に関しては、個人の空間から段階的に共有空間につながる方針でアプローチしていく。具体的には居室のまとまりを複数に分けてそれぞれに小共用部を配置し、それら小共用部から大共用部へといった流れにする。このように段階的な交流の流れをつくり、空間の境をあいまいにすることで自然に人とコミュニケーションできるようになることが期待できる。

< 短大とのつながり >

寮空間と短大空間のつながりについては学生寮利用者の意見を参考にし、食堂と屋外テラスを空間同士のクッションとすることにした。また、こういった場合にも上記の段階的な交流の流れが活かされていくと考えられる。

2009年度 卒業研究ゼミ発表要旨集

< 収容人数 >

短期大学部の学生寮には毎年 40 人ほどの希望者が出ており、中には入寮条件が揃っていても選考に落ちしてしまう者も 10 人ほどいる。また、学生寮によって入学希望に差が出る可能性があるとのアンケート結果もあるので、それらを考慮して収容人数を現在の 32 人から増やすのが望ましいと考えられる。加えて、４年制学部の女子学生を１０人ほど収容することも考え、今回の設計では収容人数を 64 人に想定する。

< 規模・設備 >

収容人数が倍増することで当然寮全体の規模も増すが、それに加え今回は共用部を多くとっていくので最終的な規模は他の短期大学の寮に比べ、この収容人数に対しての規模としては大きめになる。設備に関しては運営面での問題が発生するので、必要最低限の以下の設備とする。

食堂、屋外テラス、洗濯室、共用トイレ・バス、小ラウンジ（兼 静養・勉強スペース）

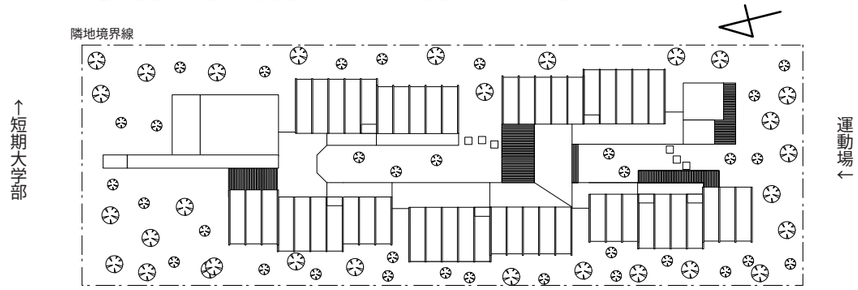
- 新学生寮の設計 -

< 建築規模 >

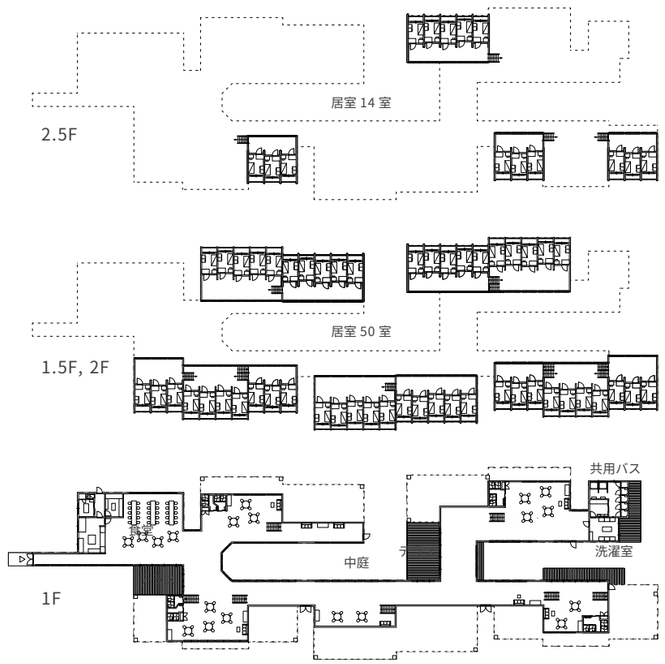
■敷地面積：6075 ㎡　■建築面積：2052 ㎡　■延べ床面積：2490 ㎡　■居室数（面積）：64 室（6 畳）

< 配置図（1:1000）>

敷地には植栽を多く取り入れ、周りの環境との境を強調させると共に中庭と合わせて共用部を華やかにする。
また、冬季中の除雪のことも考えて中庭は広い開口で外へ繋がるようにしている。



< 平面図（1:1000）>



この学生寮では設計コンセプトにあるように、いくつかの居室のまとまり毎に小共用部としてラウンジを配置し、それらを中庭を介して大きくつながるようにしている。ラウンジはそれぞれの居住室から自然にアクセスできるようになっており、コミュニティ性を高めている。また、居室部分にスキップフロアを採用することで個室同士の空間のつながりを段階的、連続的に感じさせることが出来る。

居室を１ステップ上に、洗濯室や共用バスを再奥に配置することで入寮者の生活空間と短大の空間を段階的につなげるようにしている。そのため、個人のプライバシーはコミュニティ性が高くとも守られる。